

私たちは、政権交代を目的の当たり前にして一人一人の行動の重さを改めて実感した。マニフェスト(政権公約)には競って現代日本の抱えるさまざまな問題に対する解決策が取り上げられていたが、その争点にスポーツが取り上げられることはほとんどなく、残念ながらスポーツは、国民生活の関心事ではないのである。スポーツ政策を訴えなければ支持されない、そういった諸外国のようになるには、まだまだ時間がかかる。こういった文化の違いが競技力の差にもつながるのだから。

日本と海外のスポーツを

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



比べるうえで、歴史や文化の違いはどうしようもない現実である。また各国ごとにスポーツに対する考え方も違う。少なくとも日本はスポーツを趣味や余暇、そしてアマチュアリズムとい

今非常に厳しい状況に置かれている。国と地方、企業の現状を考えれば、その将来を楽観視できる状況ではない。むしろそれらに頼りきりだったために、自らの意思でその将来さえ決める

ならない。今後日本スポーツの将来は私たち自身の手にならなければならないのである。そのため一人一人の意識の変化と行動が重要なのである。私たちの行動が日本のスポーツを変える。「S

ない。スポーツも政権交代(行政・企業から私たちへ)する時が来たのである。まずは、スポーツが抱えているさまざまな問題について再度検討していくことから始めたい。アマチュアとプロ、地域のスポーツ現状、スポーツとお金、スポーツと行政、スポーツと教育、スポーツとリスク等、日本スポーツの理想と現実について、皆さんと考えていきたい。 〓隔週土曜日掲載

主役交代の時

った面からとらえる傾向が強いため、その優先順位は介護や子育て、環境などと比べ、決まって後順位である。今スポーツが諸問題の解決の糸口になることに、大きな期待が寄せられているのである。

しかし、そのスポーツは

PORTS MUST CHANGE。日本のスポーツは変わらなければならない。

やつか・てつ 1972年、埼玉県生まれ。高校、大学、社会人とサッカーを続け、30歳で現役引退。05年、スポーツ法務専門の谷塚行政書士事務所を開業。スポーツ組織の運営やリスクマネジメントなどを行う「REGISTA有責任事業組合」代表。